

## 中学2年2組 国語科学習指導案

指導者 永野信吾

グループで比べ読みを行った結果をもとに、短編小説の構成や表現の工夫の特徴とその魅力について学級全体で検討したことは、文学的文章の批評的・評論的な読み方を身につけ、小説世界の魅力についてより多面的に思考することに有効であったか。

### 1 単元名 小説の魅力にせまろう ～読みの交流で深める作品の世界～

#### 2 授業の構想

(1) 本学級は学習に対して意欲的な生徒が多く、国語の学習にもとても前向きに取り組んでいる。読書が好きな生徒も多く、毎日朝読書の時間には集中して本を読んでいる生徒が多い。各自が手にしている本に目を向けるとマンガや映画の小説版やタレントのエッセーなど、比較的平易な文章が多く、工夫を凝らした構成や巧みな表現をもつ作品は少ないように感じられる。また、授業中に作品の感想を書かせると自分なりに考えをまとめてワークシートを埋めることはできるものの、それをみんなの前で発表するように求めると、積極的に手をあげる生徒は少ない。自分の作品のとらえ方や感想に自信をもてない生徒が多いのではないかと思われる。

- ①先生のあだ名が「チョーク」だということ。
- ②悲鳴が「キヤー」ではなく「ギャー」というところ。
- ③チョークを百発百中のコントロールで額のど真ん中に当てられる先生がいるところ。当たったところがアザになるぐらい強いところ。
- ④娘が先生の話をする、「授業中におしゃべりをする方が悪い。」と笑っていた母親が、授業参観日に話していて、先生にチョークを当てられて「静かにしなさい。」と注意されたところ。
- ⑤非現実な登場人物、驚くような結末が、最後の最後まで分からないところなど、読者を物語に引き込む工夫があるところ。

これは星新一のショートショート作品「チョークの行方」を授業で扱った際、どこがおもしろかったかという質問に生徒が答えたものである。「チョークの行方」は、授業中にしゃべった者には例外なくチョークを投げつけ、命中させる教師のことを娘が話したとき、おしゃべりする方が悪いと笑っていた母親だったが、次にチョークが投げつけられたとき、その標的はその母親だったという作品である。①、②の生徒は単にユニークなあだ名や大げさに表された擬音語のおもしろさに関心が向いている。③の生徒は登場人物の非常に高い能力とその効果に注目しているが、①、②の生徒と同様に話全体の構成には目が向いていない。それに対し、④の生徒は、前半でおしゃべりをする生徒を批判していた母親が最後にチョークを当てられるという意外な結末のおもしろさに注目している。そして⑤の生徒になると、登場人物の設定や意外な結末はもとより、それらが読者の関心を引くために意図的に仕組まれたものであることにも気づいている。これまでの生徒一人ひとりの生活体験や読書生活には個人差があり、そのため同じ作品を読んでも、受け止め方は個人差がとても大きい。

文学的文章を読むことの楽しさは、一つには登場人物の心情に自分を重ね合わせ、その世界を疑似体験することにある。表現が平易で登場人物の設定も身近なものであればその心情に寄り添いやすく、作品の世界に浸ることが容易である。しかし、文体が文語調のものであったり時代設定が古かったりすると、読み進めることに抵抗を感じてしまう生徒も少なくないと思われる。そのような場合、分かりやすい作品から始めて、少しずつ難易度を上げながら数多くの作品に接する機会を設けることで抵抗を少な

くすることができる。もう一方で、登場人物の関係や心情のみならず、文章そのものの構成や舞台設定、表現の工夫、その背景にある作者の意図などについて広く知ることで、読むことの楽しさを広げることが可能だと思われる。

(2) 本単元では、菊池寛の短編小説「形」を中心教材として扱うが、それ以外にもいくつかの短編小説を取り上げ、それらを比べ読みすることによって、文章の構成や表現の特徴・工夫に着目し、文学作品の魅力について知ることをねらいとする。

「形」は、以前から多くの教科書に所収されている作品である。槍の名手である中村新兵衛が、初陣の若い侍に羽織と唐冠を貸し与えたところ、若い侍が活躍した一方、黒革おどしのよろいに身を包んだ新兵衛は敵に討ち取られてしまう、といった内容で、わずか3頁程度の短さながら、構成や表現の面でも多くの魅力をもつ作品である。しかし、戦国時代という舞台設定のため語彙や言い回しに難しさを感じられるものも多く、生徒がこれまで国語学習で親しんできた物語文に比べると、難解に感じる生徒も多数いると思われる。

本学校園国語科では、ことばの学習、特に「読むこと」の学習を通してものの見方や考え方を広げ、深めながら、子ども自身が自己の変容をとらえる機会を大切に、よりよい言語生活や社会生活を送ろうとすることのできる子どもの姿をめざしている。表現を伴う学び合いの場で、思考力・判断力・表現力を育て、初読の「読み」を他の学習者の「読み」と照らし合わせながら更新していくことによって「個の読み」が確立されることが、国語科で考える豊かな学びにつながるものととらえている。構成や表現の工夫に富み、個々の読書経験では触れにくいであろう「形」という作品との出会いは、生徒が他者と意見を交換しながら自分の読みを深めていく学び合いを行う良い機会だと考える。その際、文章の構成や表現の工夫にポイントを絞って考えるために、本単元では「形」と他の作品との比べ読みを行う。その作品の優れた点を比べ読みによって明らかにしていくことで、生徒自らが「形」という作品のもつ構成や表現の特徴・工夫に気づき、読むことにおもしろさの幅を広げることができると思われる。一つの作品を読んだとき、そこから読み取ることのできるものは生徒一人ひとり違っている。しかし、個々の読みを授業の場で意見交換し合うことで、今まで気づけなかった新しい視点から文章を読み直すことが可能になり、個々の読みに広がりや深まりが生まれることが期待できる。

(3) 本単元で生徒に考えさせたい「形」の構成や表現の工夫としては、次のような点が挙げられる。

- ・ 題名（「形」とは何を表すかを読者に考えさせつつ、話の展開や主題について暗示している。）
- ・ 舞台設定（戦国時代の戦場という日常とかけ離れた場を設定し、話全体の緊張感や主題の重みを演出している。）
- ・ 人物設定（槍の名手の新兵衛と初陣の若い侍を対立させ、装束と戦の結果が対応する話の展開を明確にしている。）
- ・ 文章の構成（「形」と「中身」、猩々緋と黒革おどしなど二極対立の構図を組み合わせている。全体も、新兵衛の強さを強調した前半と新兵衛が死ぬ後半との対立構成となっている。新兵衛の死が鮮やかな逆転劇となるよう、クライマックスに向けて緻密な伏線が張られ、話を唐突に打ち切ることで読者に考えさせる構成になっている。）
- ・ 描写（中、長編小説のような情景描写を極力排し、主題をクローズアップしようとしている。）
- ・ 視点（3人称で話を進めることで、読者が話の展開を俯瞰的な視点から読むように仕向けている。）
- ・ 語彙・語感・文体（時代設定に即した語彙を用いて、表現に統一感を出している。簡潔で歯切れのいい文末、クライマックスの短文の連続などで、急展開する話の緊張感を効果的に表現し、主題を明確に読者に伝えている。）

ただし、これらを知識として教師が伝えるのではなく、生徒が互いに学び合う中で発見していけるように学習を設定していきたい。そこで、第1次では、まず「形」を読み、初読の感想を残すところから始めたい。おそらくこの段階での読みはまだ表面的なものであり、作品のもつ奥深さに注目できる生徒

は少ないと思われるが、学び合い後の読みの深まりと比較するためにも、まず最初に「形」を読ませ、感想をもたせたい。その後、短編小説という形に慣れること、また、文章の構成や表現の工夫に着目することをねらいとして、星新一の短編小説を読む活動を設定した。いくつかの作品を読む中で、舞台設定や内容などが違っても、短編小説には前述したポイントのような共通項があることがある程度見出せるだろうと考える。

これを受けて第2次では「形」をもう一度読み進めていく。単にこれだけを読むのではなく、芥川龍之介の「鼻」と比べ読みすることによって、それぞれの良さ・工夫について考えさせたい。初めに生徒一人ひとりが自分の視点から作品の良さ・工夫されている点についてまとめる。その後、少人数のグループに分かれ意見交換を行うことでそれぞれの読みを広げたい。また、各グループで出た意見を全体の場で交換することによって、「形」と「鼻」に共通する特徴やその構成に込められた作者の意図などにも目を向けさせたい。

第3次では、単元のまとめとして、『形』の魅力』または『鼻』の魅力』という題で評論文を書く活動を設定した。これは学び合いによって変容した自分の読みを確認するための作業である。他者の考えを聞くことによって、それまで自分の中にはなかった新たな視点を発見したり、一人では気づかなかった作品の良さを知ることができるはずである。それをもとに作品の良さについて書くことは、学び合いによって変容した自己に気づくことにつながり、今後の読書意欲につながる活動になると思われる。

### 3 展開計画（全10時間 本時7/10）

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は、学級全体の学び合いの場面）
1	短編小説の特徴や工夫をつかむ。	1 2 3	・「形」を読み、初発の感想を書く。 ・星新一のショートショート作品を読み、内容や特徴について確認する。 ・短編小説に共通する特徴や工夫について検討する。
2	「形」と「鼻」の魅力について考える。	4 5 6 ⑦ 8	・芥川龍之介の「鼻」を読み、初発の感想を書く。 ・「鼻」の内容や特徴について確認する。 ・「形」を読み、内容や特徴について確認する。 ⑦・「形」と「鼻」の構成や表現の工夫のどんな点が優れていて魅力的なのか検討する。 ◇表現や構成の工夫について、他者の発言や他のグループの発表を参考にし、新しい視点から作品の魅力を見出している。 ・「形」と「鼻」の主題について検討する。
3	「形」と「鼻」の批評文を書く。	9 10	・「形」または「鼻」の評論文を書く。 ・評論文を互いに鑑賞し合う。

### 4 学び合いによる思考力・判断力・表現力の評価

次	時	学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					A	B	C
2	⑦	◇構成や表現の工夫のどんな点が優れていて魅力的なのか検討する。	構成・表現の共通点や相違点、工夫について、他者の考えと比べながら自分の考えを述べている。	発言 書き込み ふりかえり	文章を根拠にして、作品の良さを読み取り、学び合いの中で自分の考えを述べつつさらに読みを深めている。	文章を根拠にして、作品の良さを読み取り、学び合いの中でその読みを深めている。	構成や表現の工夫についてのとらえ方が不十分で、学び合いの中でも読みを深めることができない。

## 5 本時の学習

### (1) ねらい

「形」と「鼻」について、グループで比べ読みを行った結果を学級全体で検討し、構成や表現のもつ魅力を多面的に考え、批評的・評論的な読み方を身につけることができる。

### (2) 展 開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価（◎は学び合いのためのはたらきかけ）
1. 本時のめあてを確認する。	
友だちの考えを参考にしながら「形」と「鼻」の構成や表現のもつ魅力について考えよう。	
<p>2. 「形」「鼻」の優れている点はどこか、自分の考えを伝え、グループで伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読者がイメージを膨らませやすいように、あえて題名を一字にするという点に工夫が見られる。</li> <li>・ 一文を短くすることで、話の流れにスピード感を出している。</li> <li>・ 猩々緋と黒革おどし、唐冠と南蛮鉄のかぶとなど、対比の表現が使われている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の段階で発表内容や役割分担を確認しておき、スムーズに話し合いが進むようにしておく。</li> <li>・ 生徒の発言に対して、疑問点や根拠などを問い返し、思考を掘り下げていく。</li> <li>・ 出た意見はホワイトボードに記入させる。</li> <li>・ 発言の幅が広がりにくい際は、第1次の学習を想起させ、いろいろな視点から考えられるよう提案していく。</li> <li>・ ホワイトボードを黒板に並べ、発表するように代表者に指示する。</li> </ul>
<p>3. グループで出た意見を全体で発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 細かい描写は場面をイメージしやすい。</li> <li>・ 余分な飾りのない表現はテンポが良く、緊張感がある。</li> </ul>	<p>◎二作品に共通する工夫はないか、また、その工夫の背景にある作者の意図（何をねらってその工夫をしたか）を考えさせるようにする。</p>
<p>4. 本時のふりかえりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いろいろな人の意見を聞いて、自分が意識していなかった工夫に気づくことができた。</li> <li>・ 意外な結末であるということと、その結末には作者からのメッセージが込められているということが分かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノートに感想をまとめるよう指示する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">—— 評価の観点（読む能力） ——</p> <p>表現や構成、作者の意図などについて、他者の考えと比べながら自分の考えを述べ、新たな視点から作品の魅力について考えを深めることができる。</p> <p style="text-align: center;"><b>【評価方法 発表・ノート】</b></p> <p><b>支援</b></p> <p>第1次の学習を思い起こさせ、構成や表現の工夫について気づくことができるよう助言する。</p> </div>